

# 小郡市人権センター通信

Vol.24  
H27.9.15

## 人権センター公開講座のご案内

### 「人の世に“熱と光”を求めて」 ～人権の取材・啓発活動を通して見えたもの～

【講師】ジャーナリスト <sup>にし お のりおみ</sup> 西尾 紀臣 さん

#### 【プロフィール】

- 毎日新聞社佐世保・佐賀・宮崎・大分の各支局長を歴任。
- 同和対策事業特別措置法の制定を機に部落問題企画「谷間に光を」の実態・歴史・展望の各編をはじめ、部落問題企画「同対法の軌跡」を執筆。
- 14年間にわたり「支局長評論」（567回）を掲載し人権問題を中心としたキャンペーンを展開。
- 佐世保市同和対策審議会委員、宮崎県PTA新聞講習会講師、小さな親切運動大分県本部理事、「ムッチャン平和祭」実行委員会幹事等を歴任。
- 現在はフリーのジャーナリスト、福岡県人権施策推進懇話会委員としてご活躍中。

■日時：平成27年9月25日（金）19：30～21：00

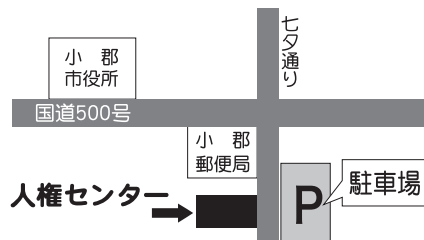
■会場：小郡市人権教育啓発センター（大集会室）

小郡市の名誉市民である「上杉佐一郎さん」をご存知ですか？「上杉佐一郎さん」は、人間平等社会の実現にむけて部落解放運動を進めていき、さらには反差別国際運動【IMADR（イマダー）】を創設しました。このIMADRは日本に基盤を持つ人権NGOとして初めて国連との協議資格を持っています。

今回の公開講座では、この「上杉佐一郎さん」の伝記『上杉佐一郎伝』の執筆に携わられた西尾紀臣さんを講師にお招きします。執筆の際の取材を通して出会った方々とのエピソード等を話していただき「上杉佐一郎さん」の生き方を通して、人権問題について学びたいと思います。

部落差別の解消は「国民的課題」であり、「国の責務である」と明記した同和対策審議会答申から50年、「差別のない社会を次世代につなぐために・・・私たちにできることは何か」について一緒に考えてみませんか？ぜひお気軽にご参加ください。

手話通訳あり・入場無料



## 小郡市人権教育啓発センター

(所在地) 〒838-0141 小郡市小郡296  
(電話&FAX) 0942-80-1080 (直通)  
(Eメール) dotai@city.ogori.lg.jp  
(ホームページ) <http://www.city.ogori.fukuoka.jp/>  
【ホーム>観る・学ぶ・人権>人権教育啓発センター】

# ～同和問題の解決に向けて～

皆さんはすべての人の「人権」が守られ、一人ひとりが個人として尊重される社会となっていると思いますか？私たちはみんな幸せで豊かな社会を願っています。これらのことを日本国憲法は「基本的人権」という誰にも侵されない普遍の権利として、すべての国民に保障しています。しかし、私たちの周りには、この「基本的人権」が不当に侵されている多くの事実があります。

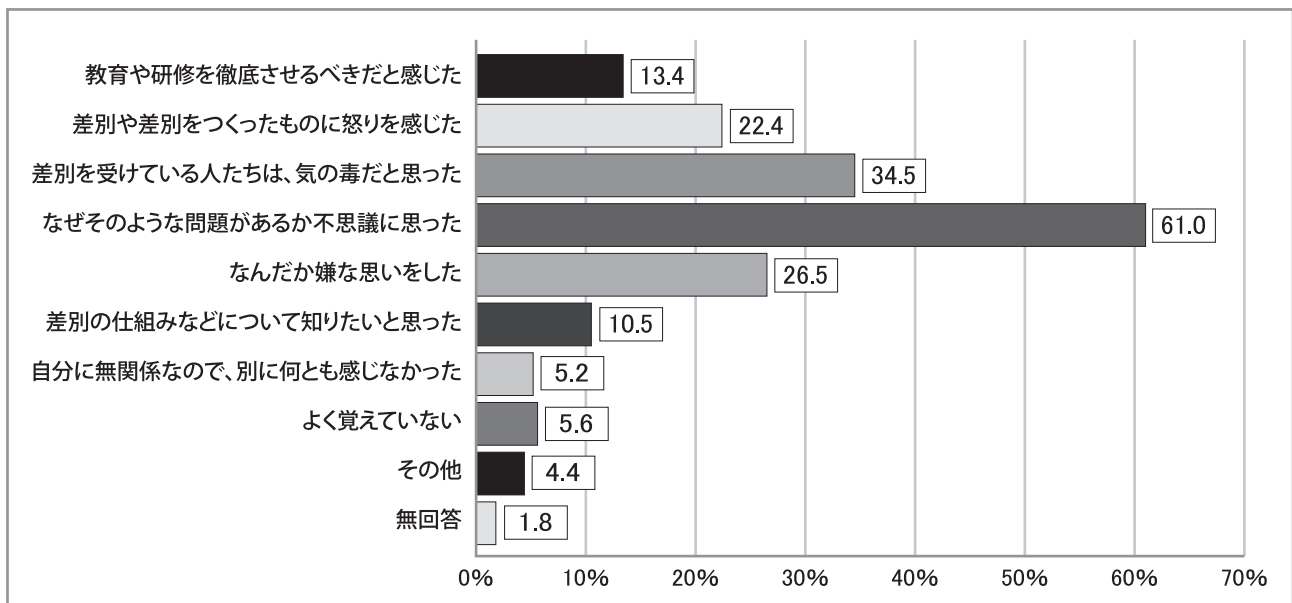
例えば身元調査をされて結婚を反対されたり、特定の地域についての差別調査が行われたりしていることを知っていますか？これは、同和問題という日本の歴史の過程で形づくられた身分差別により、一部の人たちが長い間社会の中で差別を受け続けてきた日本固有の人権問題です。

それ以外にも、女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人に対する人権侵害など、様々な人権問題が多く発生しています。また、社会環境の変化に伴いインターネットなどを用いた人権侵害も新たな問題となっています。

このような人権問題を解決するために、小都市では平成24（2012）年11月に「人権・同和問題市民意識調査」を実施しました。その中の「同和問題」に関する調査結果から差別をなくすためにはどうしたらよいか、考えてみたいと思います。

まず、同和問題（部落問題）があることを知った時に、どんな感じを持ったかを尋ねました。

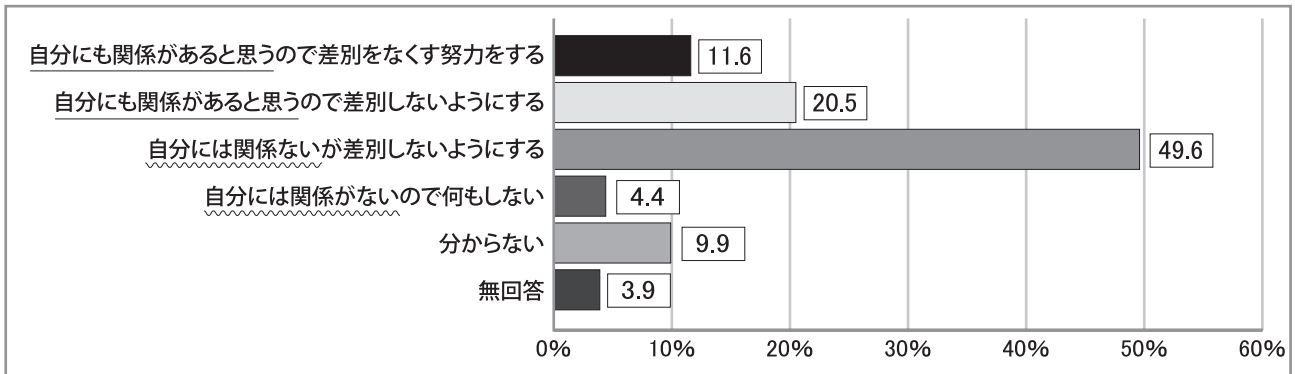
## Q1. 同和問題を知った時どのような感じを持ちましたか？（複数回答）



最も多かったのは「なぜそのような問題があるか不思議に思った」、次いで「差別を受けている人たちは気の毒だと思った」でした。このことから、同和問題（部落問題）について正しく理解していない人が多く、「自分とは関係のない」「差別されている人は気の毒だ」と傍観者的な立場の人が多く読み取れます。

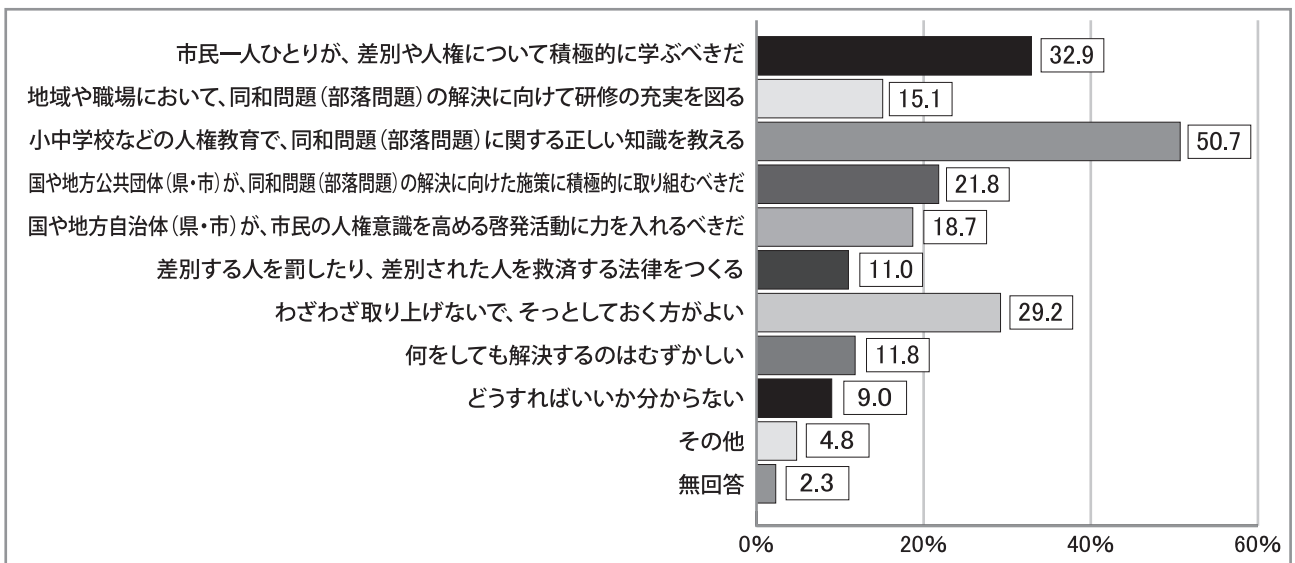
では、次に同和問題（部落問題）の解決と自分との関係について見てみましょう。

## Q 2. 同和問題（部落問題）の解決と自分との関係についてどう思いますか？



最も多かったのは「自分には関係ないが、差別しないようにする」で、次いで「自分にも関係があると思うので、差別しないようにする」でした。このことから、部落差別をしてはならないという考え方が社会的に定着してきたことが読み取れます。でも、同和問題が自分に関係があると考えている方の割合が32.1%であるのに対し、自分には関係がないとする方の割合は54.0%に達しています。一人でも多くの方が同和問題や人権問題を自分のこととして考えることがその解決につながるのです。そのために私たちは何をしたらいいのでしょうか。このことについて考えてもらいました。

## Q 3. 同和問題（部落問題）を解決するためにどのようなことが重要だと思えますか？（複数回答）



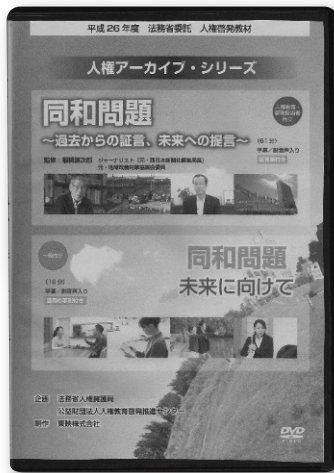
最も多かったのは「小中学校などの人権教育で、同和問題に関する正しい知識を教える」「市民一人ひとりが差別や人権について積極的に学ぶべきだ」でした。一方で「わざわざ取り上げないでそっとしておく方がよい」という回答も多かったです。しかし、正しく理解しないと、事実に基づかない情報に接した時に予断や偏見が生まれ差別へとつながってしまいます。また差別に無関心であると知らない内に他人を傷つけてしまうかもしれません。そして、自分の人権にも気づかなくなります。日頃の自分の考えや感覚を振り返り「本当にそうかな？」と疑問を持ち、そして正しく知ること・学ぶことが大切です。差別をなくすことへの第1歩、無関心にならないためにまずは、いろいろな研修会などに参加してみませんか？そうすることで、気づきや学びが得られると思います。



小郡市では毎年12月に人権週間記念講演会を開催しています。  
カン・サンジュン  
 今年は12月6日（日）に開催します。講師は「姜尚中さん」です。

# 人権センターライブラリー

## 「同和問題①～過去からの証言、 未来への提言～②～未来に向けて～」



(DVD)

(内容)

次世代へ伝えていくために…同和問題に関する歴史的経緯、問題の本質などについてわかりやすくまとめられています。

日本特有の人権問題である同和問題に焦点を当て、人権教育・啓発に携わる職員などが身に付けておくべき同和問題に関する歴史的経緯、問題の本質などについて関係者の証言や解説を中心にまとめられています。また、啓発プログラムとしてもわかりやすく制作されています。

《テーマ》同和問題  
《上映時間》61分・19分

- ★このほかにも、様々な人権問題をテーマにしたビデオやDVDを揃えています。
- ★皆様のご利用をお待ちしています。

## 「同和問題と人権」

### — あなたはどう考えますか? —

(内容)

皆さんは、同和問題についてどのくらい知っていますか？日本特有の人権問題である同和問題の解決を図るため、国は地方公共団体とともに立法措置を含む様々な対策を講じてきました。しかし、インターネットを悪用した差別的書き込みや結婚・就職問題などの差別事案はいまだに後を絶ちません。

**同和問題とは一体どのような問題なのか、どうしてこのような問題が存在し、何故なくならないのか。同和問題を正しく理解し、同和問題を解決するためにはどうすればよいのか、このビデオを見ながら考えてみませんか？**



(DVD)

《テーマ》同和問題  
《上映時間》28分